

## 祝辞

# 「一般財団法人新技術振興渡辺記念会 創立35周年に寄せて」



文部科学事務次官  
戸谷 一夫

一般財団法人新技術振興渡辺記念会の創立35周年、おめでとうございます。

貴財団は昭和57年7月1日の創立以来、科学技術に関し独自に調査・研究を行うとともに、調査研究に対する助成・奨励を行うことより、新技術の振興を図ってきました。また、国際交流に対する援助や新技術の振興に業績を挙げた方への表彰等も行ってきました。このように科学技術の振興に大いに貢献されてきたことに深く敬意を表するものであります。

少子高齢化を迎えた我が国が将来にわたって成長と繁栄を遂げるための要は、科学技術イノベーションであり、第5期科学技術基本計画に基づき、世界で最もイノベーションに適した国を目指しているところです。このため、文部科学省として、政府研究開発投資目標の達成に向けた科学技術予算の確保、知の基盤である学術研究、基礎研究の長期的な視点に立った支援、研究環境向上のための研究施設・設備の整備等に取り組むとともに、世界最高水準の研究活動等を進めています。また、科学技術イノベーションを担い未来を切り開くのは人材であり、すぐれた若手研究者の育成、確保や将来を担う人材の育成、女性研究者の支援等に取り組んでいるところです。さらに、人材、知、資金の好循環システムの構築に向けて、組織対組織の本格的な産学官連携やベンチャー創出、起業家育成機能の強化など、オープンイノベーションの加速に向けた改革を進めるとともに、地域科学技術イノベーションや革新的・挑戦的な研究に関する取り組みを

進めているところです。

このような科学技術イノベーションに係る施策の展開にあたっては、経済・社会等の状況を多面的な視点から把握・分析した上で、課題対応等に向けた有効な政策の立案等が必要とされます。文部科学省としては、客観的根拠（エビデンス）に基づく政策形成の実現を目指して、科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業を行い、基盤的研究の実施、人材育成拠点の整備、公募型研究開発プログラムの推進、必要なデータを蓄積するためのデータ・情報基盤の構築などを一体的に推進しているところです。

このような状況において、科学技術・イノベーション政策に関する調査研究を中心として活動され、特に政府においては必ずしも十分に取り組めない調査研究を自ら行い、あるいは、助成しておられる貴財団の活動には期待するところは極めて大きなものがあります。

貴財団の35年の歴史を振り返りますと、神田通信工業元社長の故渡辺勝三郎氏の御遺志により、貴財団が創立されたわけではありますが、その後の困難な時期を乗り越え、今日に至ったのは、武安義光理事長の御指導の下での、貴財団の執行部の努力の賜物であり、このことにも深く敬意を表すところでもあります。今日、貴財団におかれましては、安定した基盤の下に、科学技術に関する調査研究の実施、調査研究の助成、国際交流の支援、普及啓発活動を活発に行っておられます。今日の貴財団の活動状況を鑑みるに、ここに至るまでの武安理事長をはじめとする財団関係者の尽力に改めて深く敬意を表します。

今後、財団の設立目的にうたわれる新技術の振興とその普及は、今日的には科学技術イノベーションの推進といえませんが、これは今後の我が国にとってますます重要になってまいります。このような時代の中、貴財団の今後の活躍と発展を期待しております。